普及活動情勢報告（平成２９年１０月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

販売額10億円を目指して　～土佐甘とう生産者交流会の開催～

雨よけ栽培ほ場での検討会の様子

10月14日、津野山地域で県内の土佐甘とう生産者、関係機関49人が参加し、生産者交流会が開催されました。

椿原町の雨よけ栽培ほ場では、参加者から「整枝方法は？」「高温対策は？」といった質問が出されました。その後、ＪＡ津野山営農センターで平成29園芸年度の販売経過の報告、今後の課題や栽培管理について情報交換が行われました。また、県内生産者が活用できるよう栽培指針を作成することになりました。

農業改良普及課では、今後とも関係機関と連携しながら、土佐甘とうの生産振興に取り組んでいきます。

ＩＰＭ技術の向上を目指して　～促成キュウリの実証ほ設置～

天敵を放飼する営農指導員

10月11日、須崎地域でキュウリの実証ほを設置し、実証農家とＪＡ、振興センターが協力して天敵のリモニカスカブリダニの放飼を行いました。

キュウリ栽培で問題となる黄化えそ病の対策として実証ほでは、病気を媒介する害虫を防除するためにハウスサイドや天窓に0.3ｍｍの防虫ネットや補殺トラップを設置、定植約２週間後に天敵の放飼を行いました。実証農家は「天敵を活用したＩＰＭ技術は、これからの農業で必要である」と技術の向上に期待しています。

農業改良普及課は、今後も実証農家や関係機関と協力して実証ほの調査を行い、技術の向上や部会への普及に取り組みます。

農産物事故０を目指して！　～第３回ＪＡ津野山営農センター集出荷場版ＧＡＰの実施～

記録簿を確認中

10月24日、ＪＡ津野山、園芸連、農業改良普及課がＪＡ津野山営農センター集出荷場で、第３回目の集出荷場版ＧＡＰ点検を行いました。

参加者からは、予冷庫のチェック体制を早急に整える等の指摘が出ました。記録簿を確認した後、集出荷場へ行き、前回（８月）に指摘されたことが改善されているのか、さらに改善する余地はないのか等参加者で点検をしました。集出荷場に置くのは相応しくないものを除くこと等はできていましたが、窓枠の清掃が不十分で異物が混入しやすい状況にあること等が指摘され、まだまだ改善する余地があることが再認識されました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携して集出荷場のＧＡＰ点検活動を行い、農産物事故０を目指し、支援します。

集落営農に取り組もう！　～津野町集落営農塾組織化編第１回～

意見交換の様子

９月２９日、津野町とともに津野町役場２階会議室で、集落営農塾組織化編を開催し、生産者５人が参加しました。

農業改良普及課からは、津野町における農業の状況や農地を守るために集落営農の取り組みの必要性や県外の集落営農の事例を紹介しました。また、津野町からは広島県ファーム・おだの研修について報告を行いました。

参加者からは、「集落営農に取り組みたいが農地が整備されていない」「複数集落での組織化事例はないか」など、意見交換の中でそれぞれの集落から意見を聞くことができました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携して集落営農組織化に向けて支援します。

感謝祭に七面鳥を食べよう！　～６次産業化支援チーム会を開催～

七面鳥チーム会

10月４日、中土佐町役場で、中土佐町大野見地区で飼育されている七面鳥について、活用のための６次産業化支援チーム会を開催しました。

新たな販路を検討した前回のチーム会を受けて、生産組合事務局からアスリート向けのレストランへの商談結果について報告がありました。また、七面鳥を食べるシーンの演出として、11月の感謝祭の日にイベントを実施することが決まりました

農業改良普及課は、今後もチーム会で七面鳥生産組合の販路拡大への取り組みを支援していきます。

輝け、地域の担い手！　～新規就農者激励会を開催～

激励会の様子

10月3日、ＪＡ土佐くろしお４ＨＣの主催で管内の新規就農者激励会を開催しました。今年度は12名が就農しており、新規就農者の門出を祝うために、４ＨＣ員、ＪＡや市町職員が多く集まりました。

会では、来賓から激励の言葉、新規就農者から自己紹介を行った後、農業改良普及課からは「農業の基礎知識」について講演を行い、参加者は熱心に聞いていました。会の後は懇親会で意見交換を行い、交流を深めました。

今後も、関係機関と連携して担い手の確保・育成に取り組みます。

生育終盤に向けた基本技術の徹底　～ＪＡ津野山ナス部会現地検討会の開催～

うどんこ病の勉強中

９月 29 日、ＪＡ津野山ナス部会米ナス生産者及び関係者、計 16 名が参加し、農家ほ場での現地検討会を開催しました。

農業改良普及課からは、今後の夜間や日中の温度管理や換気等について、ＪＡからはうどんこ病の防除対策、米ナスの販売状況の説明を行いました。参加者からは「雨天時等の天候が悪い時でもむやみな蒸し込みをしない」、「うどんこ病に農薬の抵抗性が出ているので気をつけたい」等の意見が出され、多くの生産者から作の最後まで気を抜かずに収量を上げていきたいとの声が聞かれました。

農業改良普及課では今後も関係機関と連携し、生育終盤に向けた基本技術の徹底をはかり、増収に向けた支援を行います。